

2018年11月20日
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
SOMPOシステムズ株式会社

平成30年度IT賞において「ITマネジメント賞」を受賞 ～ 国際標準フレームワークを活用したITガバナンス強化の取り組み ～

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）およびSOMPOシステムズ株式会社（社長：浦川 伸一、以下「SOMPOシステムズ」）は、公益社団法人企業情報化協会（会長：小縣 方樹）主催の平成30年度（第36回）IT賞において、「ITマネジメント賞」を受賞しました。

1. IT賞の概要

わが国の産業界において、“ITを活用した経営革新”に顕著な努力を払い、優れた成果をあげた企業・団体を表彰する制度で、昭和58年の第1回から今年で36年目を迎えます。
平成30年度は計32社（28件）が受賞しました。

※IT賞の詳細は、公益社団法人企業情報化協会のホームページをご参照ください。
<http://www.jiit.or.jp/information/detail/info36itaward.html>



2. 「ITマネジメント賞」受賞の内容

(1) 案件

国際標準フレームワークを活用したITガバナンス強化 ～ ファクトベース経営への転換 ～

(2) 受賞理由

損保ジャパン日本興亜・SOMPOシステムズ両社は、ITガバナンスのための国際標準フレームワークである、『COBIT^{※1}』 『CMMI^{※2}』 『ITIL^{※3}』の組織適用を同時並行的に進め、それを成功させたことが評価され、今回の受賞に至ったものです。

全社的なITガバナンスを強化する目的で「ITガバナンス強化プロジェクト」を設置し、COBITを取り組みの中核に据え、3つの国際標準フレームワークの同時適用を一気に成し遂げました。

この取り組みでは、細部において完全には整合しない各国際標準のコンセプトを、相互に整合性を高めながら同時適用を実施しました。

同時適用の結果、各種データの可視化とともに継続的改善のためのPDCAの確立に成功し、「ファクトベースでの意思決定」が可能となりました。

※1 Control Objectives for Information and Related Technology：組織のITガバナンスとITマネジメントの円滑な運用を可能にするためのガイドライン。

※2 Capability Maturity Model Integration：システム開発を行う組織がプロセス改善を行うためのガイドライン。

※3 Information Technology Infrastructure Library：ITに関する運用・管理手法を体系的にまとめたガイドライン。

3. 今後の取り組み

損保ジャパン日本興亜はSOMPOホールディングスグループの中核会社として、お客さまの立場で徹底的に考え、価値ある商品やサービスを創造し続け、グループの経営理念である「お客さまの安心・安全・健康に資する最高品質のサービスの提供」の実現をリードできるよう、SOMPOシステムズとともに全社を挙げてITガバナンスの更なる強化に努めていきます。

以上